

## 総務経済委員会オンライン行政視察調査報告書

1. 調査月日 令和3年12月3日（1日間）
2. 調査先・項目 長野県塩尻市  
・時短就労者を対象とした自営型テレワーク推進事業 KADO  
について
3. 調査場所 網走市議会委員会室
4. 調査派遣委員 小田部 照 山田 庫司郎 栗田 政 男  
立崎 聡 一 永本 浩子 平賀 貴 幸  
古田 純也 村椿 敏章
5. 調査結果 別紙のとおり

## 令和3年度総務経済委員会オンライン行政視察報告書

網走市議会総務経済委員会  
委員長 小田部 照

総務経済委員会は12月3日、長野県塩尻市の時短就労者を対象とした自営型テレワーク推進事業KADO（カドー）について、オンライン行政視察を行った。

この事業は、「ひとり親家庭等の在宅就業支援事業」から始まり、各省庁の補助金や国プロを受けながら、対象を子育て中の女性、障がい者、介護者等の“時短就労希望者”に順次拡大。地域の“働きたいけどフルタイムでは働けないすべての人”に対し、テレワークを活用し、ライフスタイルに合わせ安心して好きな時間に働ける仕組みを提供するもので、官民連携によりクラウドソーシング、テレワーク、コワーキングを組み合わせた塩尻オリジナルの地域就労支援モデルです。多くの人々の就労チャレンジを促進し、仕事を通じて成長することで最終的に地域企業への就職、社会参画を促進、スキルを有する人材として地域の人材不足を解消、就職等に失敗しても、再度「KADO」がセーフティネットとして機能することが政策の目的であります。具体的なパートナーシップとして、官民連携による自動運転・Ma a S実証実験、障がい者雇用、サテライトオフィス立地等に発展している。

各委員より次のように報告を頂いた。

古田純也委員 Zoomを活用した行政視察で、大変いい勉強をさせていただいた。ただ、僕たちも情報を仕入れただけではなく、実際には、これから何ができるのかというのがやっぱり課題だと思うので、自分でできることは何かなのと思ったが、やはり今後、テレワークという部分で、コロナになる前までは、テレワークとは何だろうと、なかなか知り得ない部分があったが、働き方改革とって、家でも仕事ができるのだなというのを実証していきたいと思うので、何らかの情報収集に努めていきたい。

村椿敏章委員 今回の視察はオンラインではあったが、非常に学ぶべきところが多かったなど。やはり、若い人たちの働く場とか、ひとり親、女性、子育ての人たちの働く場が必要だというのは当然あるし、事業経過を見ても、2010年から始めて、ひとり親から始まり子育て世代、そして、今で言えば、地域の働きたい人全ての人に門戸は開かれていて、すばらしい事業に育ったのだなというのを実感した。やはり網走にもひきこもりの方もいるし、そして障がいを持つ方でひとり親も当然いるし、若者も働きたいけれどもなかなか働けないのだという人たちも多いでしょうから、同じような形にはならないとしても、塩尻市のKADOのやり方についてもっと突き詰めていけたらなと思う。この研修を通じて、こういう気持ちになれたのもとても嬉しいし、短い時間だったが、まだまだ追求すべきところがあると感じている。

永本浩子委員 塩尻市の先見性には本当に敬服する。好きな時間に好きなだけ働ける、こんなことが本当に現実できるのだということが、本当によくわかった。そして様々なこの国の補助金も上手に活用しながら持ってきている点と、なかなか軌道に乗らなかったときも、本当にぶれることなく進んできたからこそ、今こういう形でできているのではないかなと思ひ、そういったところもまた勉強になった。

これから、女性デジタル人材というのは、国としても大変力を入れていきたいとしているところで、そういった中で、こういう働き方ができるという選択肢が網走でもできるようになれば、本当にまた新たな力が活用されていくのではないかなと思っている。そしてコロナになって、テレワークというのが一気に全国的に広がったわけだが、ただ、全国に広がってテレワークを推進してみたところ、やはり自宅でのテレワークだけではテレワーク鬱になってしまったり、コミュニケーションがとれなくなってしまうたりと、そういう新たな課題にも直面する中で、やはり塩尻市が自宅での仕事と、そして、それとコワーキングを組み合わせ、好きなときにオフィスを使える、すごく先見性があったのではと思っている。

また、網走の新しい力を生かせるような形で、何とか取り込んでいければいいのではと思う。

平賀貴幸委員 塩尻市の取組を学ばせていただいた。地域の働き手不足への危機感から始めた対策、やはり一番印象に残っており、網走も御多分に漏れず、地域で働き手不足は危機的状況であり、それを補うための一つ的手段として、テレワークを活用した新たな働き方を行政自ら開拓していくための政策を進めるというのは、大きな意義がある事業だなと改めて思った。首長さんの強い意思と覚悟があってこそ、これができたのだろうと思う。事業の継続性を保つために相当努力されたし、助成金、そういったものもうまく活用しながらやられたのだということもよくわかった。網走でこれを単独するのは、なかなか難しいと感じながら聞いており、それでも覚悟を持って地域の事業者さんと行政がつながっていけば、北海道の美唄でも取り組んでいるように、網走でも全くやれないものではないのだと思うので、何らかの形で行政に働きかけながらですね、こういった働き方が網走でも実現できるような体制整備はすべきだろうと感じた。そのためにも、コワーキングの拠点というのはつくらなければいけないと感じるが、それを行政が直接つくとあまり良くないのだろうなということも、逆に感じており、そういったところを地域の事業者さんも含めて作り上げながら、行政としてどう支えていくかというスキームづくりがまずは必要だろうと思うので、各議員がいろんな形でこのことについては、行政に対してアプローチを続けることが大事だと、未来を見据えた上で考えている。

また、地域おこし協力隊が活躍されているということで、網走の課題として、地域づくり協力隊の方々が、この町に定着して働きながら仕事を作り上げていくことができないと思っていたが、こういった仕組みができれば、その流れ

も一つ、しっかりと担保できるので、非常にいい事業になり得るのだろうなと感じた。

また、準委任契約という形で、時給制で個人事業主に仕事を発注するというやり方があることを、今回強く意識させていただいた。こういった事業をすることで、普通に雇用される場所よりは安定感に欠けるかもしれないが、自分で仕事をつくり出して、さらに高度な仕事を受けることで収入を増やしていくような、夢のある働き方というのは、やってやれないことはないのだなと改めて感じた。こういったところも含めてしっかりと政策提案をやらねばならない。そういう状況に我々は改めてあるのだなとまざまざと感じた機会だった。公的セクターでやること、あるいは民間セクターでやらなければならないこと、そういったことの線引きも、しっかりこの事例ではしていたので、そこも含めて参考にしながら、しっかり取り組む必要があると思った。

栗田政男委員 Zoomの行政視察ということで、大変勉強になった。長野県という地域柄、新幹線もあの町は通っていて、非常に先進的な試みをしていて、措置もたくさんある。首都圏のいろんな交流人口が多いのかなと思いながら聞いていた。

まず一点、行政がしっかりと音頭をとって、そこに民間の人たちが携わっていくというやり方は、すごく正しいやり方だと思う。特に地方都市の場合は、当市においてもそういう動きを役所という強みでネームバリューもあるし、もちろん資金力もある程度、民間よりはかなりある。それを活用しながら、民間の方がその働き手となりながら、継続していくという考え方は、これからはぜひとも必要なのかなという気がした。また感じたのは、Zoomというのはいい。多分、いろいろと視察、現地に行くとするならばネットで調べる。資料も頂く。現地に行って説明を聞くが、もちろんそれが一番いいことだと思うし、そうでなければいけないと思うが、その中間に位置するのかなと。やはり映像で見る、生の声を聞ける部分では非常にリアル感があって、これはある面で使い道のある手法なのかなという気がした。例えば、我々がコロナ終息後に、いろんな視察を再開するに当たっては、事前にそういう情報もZoomという形で頂ければ、またよりよいものが現地に行って頂けるのかなと感じた。

いずれにしても、早く現地に行って生の声を聞きたいなというのが正直な私の感想。

山田庫司郎委員 頂いた資料の中に、子育て、介護、障がいも含めた就労に、好きな時間に好きなだけ安心して働けるという仕組みで動き出したということで、やはり市長さんのやる気の問題も一つあるとは思いますが、そこに公社のほうで市長のやる気に依存するのではなく、一生懸命やろうという、民間の人の力も借りながら公社も動いていると。自立、自活に近い形で動いているということは、私としてはすばらしいなと思う。やっぱり今、地域で働き手の不足がこれからますますやっぱり広がってくるということになれば、アウトソーシング、テレワーク、コワーキングも含めた中で、網走市もこれからどういう対応

をしていかなければならないかということが課題として出てくると思うので、やっぱり先進事例を含めて参考にしながら、議会としてもどういう関わりを持っていけるのかも含めて整理をしながら、何かこういう形がとれるような形になれば非常にいいことだなと感じた。太田さん、いろんな事業がうまくいってるときはその人がいるからと、その人が変わってしまったら、何か事業が変わってしまうという場合もあるので、誰であろうが落ち着いた中で、本来の仕事が続くように願っているし、ぜひ現地に行って、実際に働いている方とか施設を見させてもらったり、いろんなこともしてみたかったと思っている。機会があれば行ってみたいと思う。